

飯田幼稚園 & ニューウインブルドンTC ミーティング

子どもの成長に携わる者としての心得

H28.7.28(木)開催



私たちNWTCは、飯田幼稚園の園児たちの運動能力向上のため、週1回のボランティアサポートに入っています。

そのつながりの中で、園長先生と年少担当の鈴木先生にお越しいただいて勉強会を開催しました。その時の内容をお知らせします。

《テーマ》

1. 信頼関係
2. 先生の眼差し
3. 子どもの行動原理
4. 保護者との関係性

1. 園児との信頼関係の結び方

3歳児まで…生活空間が主に家庭の中
年少として外(園)へ飛び出す ⇒ 初体験
子どもは成長し、やがて社会へ飛び出す
園は、その内の4~6歳に関わる

- 子どもの目線に合わせ支える立場をとる
- できて当たり前のことでも「できたね！」と声に出して認める
- できない ⇒ 少しフォロー ⇒ できた部分を認める
100%できなくてよい、できた部分を見つける
- お母さんに安心してもらう(母子密接関係性)
お母さんが安心すると、子どもの情緒も安定
- 本気で向き合う ⇒ 子どもに伝わる
 - ・良い時は褒める、悪い時は叱る
 - ・うわべだけで褒めない、叱らない
 - ・よく見ているから褒められる、叱れる
 - ・「よくなって欲しい」という思いがあるから、本気で褒められる、本気で叱れる
 - ・この時の眼差しや思いが、子どもにストレートに「愛情」として伝わる
- 叱る時の注意点
 - ・その子の特性に合った伝え方で伝える
(例)ある子には大きな声で目を見てはっきり
(例)ある子には優しく丁寧に
 - ・叱った後のその子の行動を、よく見る
「良い」に変わった瞬間を見逃さず、褒める
 - ・感情で叱らない
 - ・人格を否定しない(行動を否定する)
 - ・短く伝える
いつまでもグズグズ言い続けない

2. 人数の多い園児を先生一人で見るときの視点

- (例)あの子があそこで遊んでいる…少しキケン!
 - (例)あの子とあの子と一緒に遊んでいる
…ケンカになるかも!
 - (例)あの子たちのグループなら、大丈夫そう
- 《重要》一人一人の特徴(性格・運動能力等)を深く理解している必要がある

3. 子どもたちの行動原理

《パターンA》

- 「先生と一緒にいると楽しい!」
- 「先生のことが、大好き!」
- ⇒だから先生の言うことを聞く⇒先生に褒められる
- ⇒もっと好きになる⇒もっと素直になる
- 【結果】子どもの行動が◎
良いサイクル ⇒ 深い信頼関係へと発展可

《パターンB》

- 「先生、怖い…」
- 「だから、言うことを聞かなくちゃ(汗)」
- ⇒先生の前では先生の思い通りの行動をとる
- ⇒先生(怖い対象)がいなくなると、自分の思い通りの行動をとる⇒良くない場合、叱られる⇒恐怖心
- 【結果】自分の行動の何が悪いのかわからない
わからないから直せない ⇒ 悪いサイクル
⇒ 信頼関係へ発展しない

4. 保護者との関係性

保護者との良好な関係を築くことが、子どもとの良好な関係を築くことに密接につながっている

《保護者へのアプローチ》

- 子どもの「できている部分」を伝える
- 課題を伝える場合の注意点
 - ・「できない部分」という表現は避け、「課題」という表現を使う(子ども尊重)
 - ・お母さんが苦しんでいる場合もある
共感し、同じ目線に立つ
 - ・保護者と「共に歩く」という立ち位置
 - ・やりっぱなしにしない
その後のフォローを入れる
- 保護者一人一人の性格・特徴を理解
その人に合った接し方(柔軟性)
- 保護者の意見を聞く大切さ
 - ・「受け止める」と「受け入れる」の違いを明確に
 - ・「一緒にどうしていくか」=○
 - ・「私が何とかします」=×